



新潟県中越大震災 20 年プロジェクトについて

公益社団法人中越防災安全推進機構

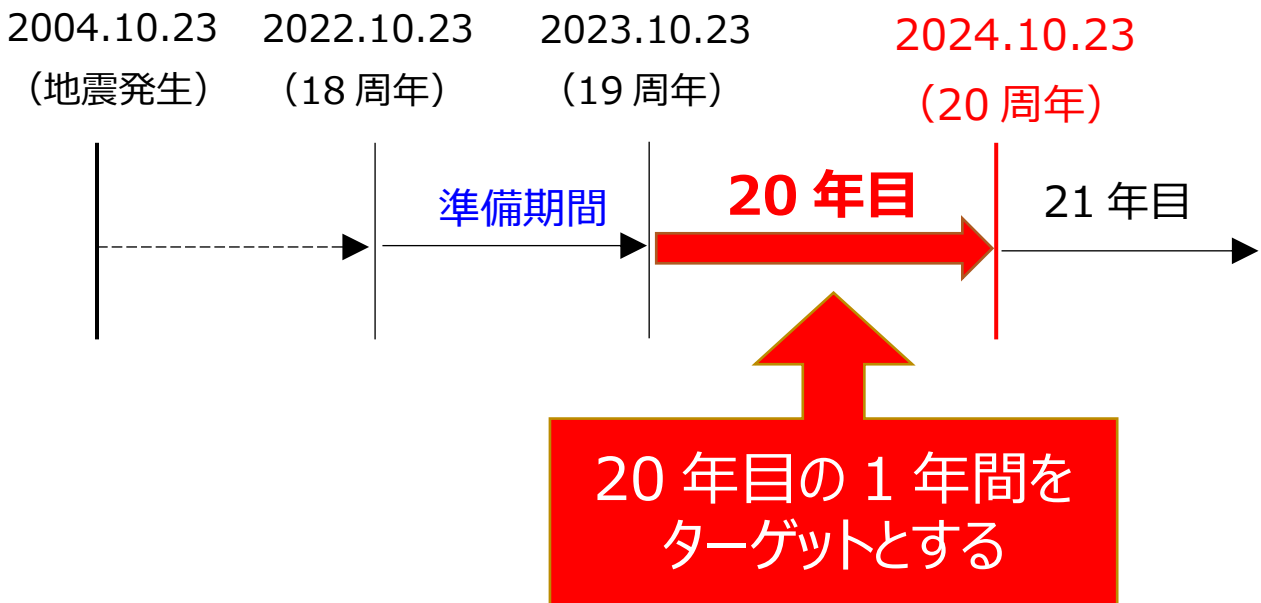
2023.10

2024 年 10 月 23 日で新潟県中越大震災からちょうど 20 年となります。

ほとんどの人は、中越大震災のことを思い出すこともなく、日々を過ごしています。震災よりあとに生まれた人はもちろんのこと、当時被災した人でさえ・・・しかしこれは人として自然なことです。だからこそ、「20 年」という節目は、震災当時を思い出したり、復興の歩みを振り返ったりする格好の機会。このままなんとなく、何もせずに迎えるのはとても「もったいない」のではないか・・・

「中越大震災から 20 年」を 2024 年 10 月 23 日の 1 日だけのこととせず、**2023 年 10 月 23 日の翌日から始まる中越大震災から 20 年目の 1 年間**をターゲットとして、いろいろな方々がそれぞれの立場や考えに基づいて中越大震災に関係する様々な活動を行うような動きを作っていきます。それが**新潟県中越大震災 20 年プロジェクト**です。2022 年 10 月 23 日の翌日から始まる 1 年間をかけてそのための準備期間を進めます。

「～ねばならない」というよりも、「～したい・やりたい・やってみよう」という気持ちで、仲間・賛同者を募りながら進めていきます。多くの方々に関わっていただけますと幸いです。



実施主体：新潟県中越大震災 20 年プロジェクト実行委員会

事務局：（公社）中越防災安全推進機構 諸橋・赤塚

Tel : 0258-39-5525 mail : info@cosss.jp

公式サイト : <https://www.chuetsu20.com/>

新潟県中越大震災 20 年プロジェクト（概要）

目的

新潟県中越大震災から 20 年という節目の年に、震災の当時のことを思い出したり、その後の歩みを振り返ったり、経験や教訓を確認したりすることで、災害に「も」強い地域づくりと人々のよりよい暮らしに貢献するとともに、中越大震災から 20 年以降の進むべき方向を見出す。

方法

様々な方々や団体が、「中越大震災 20 年」を共通のキーワードに、それぞれの立場や考えに基づいて活動を起こすような一連の動きを創りだし、これを広く発信する。

事業期間

2023.10.24～2024.10.23

アクション（予定）

ホームページ、SNS、メルマガの開設
各種イベント、フォーラム、シンポジウム、キャンペーン等の企画・開催
全国規模の学会・研究会等の誘致
マスコミと連携した中越大震災の経験・教訓の整理と発信
中越大震災から 20 年の記録誌作成 など

賛同団体（2023.10 時点 ※随時追加中）

長岡造形大学 長岡大学 新潟大学災害・復興科学研究所
長岡技術科学大学 地域防災実践研究センター 新潟工科大学 風・流体工学研究センター
国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター
公益社団法人新潟県観光協会 一般社団法人防災教育普及協会
日本災害復興学会 日本災害食学会 日本雪工学会
新潟日報社 TeNY テレビ新潟 株式会社新潟放送 FM ながおか 807
損害保険ジャパン株式会社 株式会社船山 株式会社ネルニード 水澤電機株式会社
越後製菓株式会社 株式会社夢プロジェクト アウトドアライフストア WEST
中越市民防災安全士会 日本防災士会・新潟県支部 チーム中越
NPO 法人ふるさと未来創造堂 NPO 法人市民協働ネットワーク長岡 SeRV 新潟
NPO 法人中越防災フロンティア NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)
NPO 法人新潟県ウォーキング協会 栗駒山麓ジオパークビジターセンター
長岡市 小千谷市 新潟県 国土交通省北陸地方整備局 ほか

新潟県中越大震災20年プロジェクト 賛同団体募集

2024年10月23日で新潟県中越大震災からちょうど20年となります。
ほとんどの人は、中越大震災のことを思い出すこともなく、日々を過ごしています。
震災よりあとに生まれた人はもちろんのこと、当時被災した人でさえ・・・
しかしこれは人として自然なことです。

だからこそ「20年」という節目は、震災当時を思い出し、復興の歩みを振り返ったりする格好の機会。
このままなんとなく、何もせずに迎えるのはとても「もったいない」のではないかと・・・

そこで、「中越大震災から20年」を2024年10月23日の1日だけのこととせず、
2023年10月23日の翌日から始まる中越大震災から20年目の1年間をターゲットとして、
いろいろな方々が、それぞれの立場や考えに基づいて
中越大震災に関係する様々な活動を行うような動きを作っていきます。
それが新潟県中越大震災20年プロジェクトです。

この趣旨に賛同し、一緒に活動・連携していただける団体や法人を募集しています。

事業期間

2023.10.24~2024.10.23

会費 無料

お申し込みページ

<https://www.chuetsu20.com/project/form/>

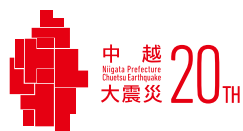


プロジェクト公式サイト

<https://www.chuetsu20.com/>



このプロジェクトに関する情報やイベント案内などを適宜お伝えするとともに、
各団体様より関連するイベントや活動の情報をご提供いただき、
その周知・広報をお手伝いさせていただきます。
プロジェクト共通のロゴもご利用いただけます。
賛同団体の一覧は公式サイトにて掲載しています。



新潟県中越大震災20年プロジェクト実行委員会
(事務局：公益社団法人 中越防災安全推進機構)

お問い合わせ・連絡先（事務局）
長岡市大手通2-6フェニックス大手イースト2階
TEL 0258-39-5525
メール info@cosss.jp

新潟県中越大震災20年プロジェクト 賛同団体

2023/10/23現在

大学・研究機関	長岡造形大学 長岡大学 新潟大学災害・復興科学研究所 長岡技術科学大学 地域防災実践研究センター 新潟工科大学 風・流体工学研究センター 防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター
公益法人	公益社団法人新潟県観光協会 一般社団法人防災教育普及協会 一般社団法人北陸地域づくり協会
学会・研究会	日本災害復興学会 日本災害食学会 日本雪工学会 エコミークラス症候群予防・検診支援会
報道機関	新潟日報社 TeNYテレビ新潟 株式会社新潟放送 FMながおか807
民間企業	損害保険ジャパン株式会社 株式会社 船山 株式会社ネルニード 越後製菓株式会社 株式会社 夢プロジェクト アウトドアライフストア WEST 株式会社FARM8 シャチハタ株式会社 有限会社ワタナベプラン 岩谷マテリアル株式会社 株式会社エイト エシカライズ 新潟エナジー株式会社 株式会社ツリーベル 株式会社Deux-PLAN サクラパックス株式会社
市民団体・NPO	中越市民防災安全士会 日本防災士会・新潟県支部 チーム中越 NPO法人ふるさと未来創造堂 NPO法人市民協働ネットワーク長岡 NPO法人くらしサポート越後川口 NPO法人中越防災フロンティア SeRV新潟（真如苑救援ボランティア） NPO法人国際ボランティア学生協会（IVUSA） NPO法人新潟県ウォーキング協会 NPO法人日本防災用品技術研究協会
連携施設	栗駒山麓ジオパークビジターセンター
行政機関	長岡市 小千谷市 新潟県 国土交通省北陸地方整備局

メルマガ会員募集のお知らせ

2023.10.24～2024.10.23 1年間限定・毎日17:56 配信

2024年10月23日、新潟県中越大震災からちょうど20年を迎えます。
ほとんどの人は、中越大震災のことを思い出すこともなく日々を過ごしています。
震災よりあとに生まれた人はもちろんのこと、当時被災した人でさえ・・・

しかしこれは人として自然なことです。

だからこそ「20年」という節目は、震災当時を思い出したり、
復興の歩みを振り返る格好の機会。

このままなんとなく何もせずに迎えるのはとても「もったいない」のではないか・・・

そこで私たちは「中越大震災から20年」を、2024年10月23日の1日だけのこととせず
2023年10月23日の翌日から始まる1年間を中越大震災から20年目、として

いろいろな方々がそれぞれの立場や考えに基づいて
中越大震災に関係する様々な活動を行うような動きを作っていきます。
それが新潟県中越大震災20年プロジェクトです。

このプロジェクトの一環として、中越大震災から20年目の期間（365日）中、
毎日違う執筆者から、毎日17時56分にメールマガジンを配信します。

配信の内容（一例）

- ・ 専門家が解説 中越大震災の特徴・教訓とは
- ・ 今だから語れる当時の想い
- ・ 20年が経過した被災地の今
- ・ 我々はこんな復興を歩んできた
- ・ 自分の人生にとって中越大震災はどんな意味があったのか
- ・ 中越大震災20年プロジェクト いつどこでどんなイベントがあるか
- ・ キーパーソンへのインタビュー など

執筆者

- ・ 中越大震災の復旧・復興に関わった専門家、研究者、行政職員、地域復興支援員
- ・ 震災当時の地域リーダー、次世代の担い手
- ・ 報道・マスコミ関係者
- ・ 民間企業、事業者、NPO法人の方々
- ・ 中越防災安全推進機構、中越メモリアル回廊のスタッフ・関係者 など



メールマガジンの登録はこちら

（QRコードを読み取り、または下記ページから登録ページで入力）

<https://www.chuetsu20.com/mailmagazine/form/>

登録無料・広告や勧誘などは一切ありません

避難所・湯煎プロジェクト賛同団体募集

避難所等でパックご飯やレトルト食品等を温められる環境づくりを促進します

災害時に避難所に避難しても、十分な食料が備蓄されているとは限らないため、避難者には食料を避難所に持参することが推奨されています。また、避難所では、発災当初は常温の食料配布が続くことが多く、被害状況によっては、被災者に暖かい食事を提供すること自体が難しい場合もあります。

そこで、本プロジェクトでは、避難所における湯煎設備の整備と、避難者が家庭備蓄しているパックご飯やレトルト食品等を避難所に持参することを促すことで、避難所でもすぐに暖かい食事が食べられる環境づくりを目指します。

実施により期待される効果

- 発災直後の避難所における食料事情の改善
- 住民の行政備蓄への依存度の低減
- 家庭備蓄食品の避難所での活用可能性の拡大（非常持出袋にレトルト食品）
⇒家庭備蓄やローリングストックの更なる普及促進へ
- 災害時に食料として支援可能な品目の拡大（レトルト食品、パックご飯等）



**【現状】 発災直後に食料が十分に
行き届かない避難所**



**【目指す姿】 避難者持参のレトルト食品を
湯煎調理することが可能な避難所**

賛同いただける自治体・企業等をお願いしたいこと

自治体、自主防災組織など

- 避難所での湯煎可能な環境整備
- 防災訓練などでの湯煎訓練の実施
- 住民に対する普及啓発、など

9月に加茂市で
訓練実施予定！

企業

- 自治体等での訓練における食材等の提供（有償or無償）
- ローリングストックの啓発、など

※上記以外にも普及のための良いアイデア等がありましたらぜひご連絡ください。

賛同団体登録

賛同いただける企業・自治体等の皆様は以下のURLもしくは右記のQRコードよりご登録ください。

<https://ws.formzu.net/fgen/S87981337/>



【呼掛団体】中越防災安全推進機構 地域防災力センター（担当；河内）
問合せ；TEL0258-39-5525 e-mail t-kawauchi@cosss.jp



みんなでローリングストックによる 家庭備蓄を普及させませんか？

ローリングストック

「おすすめの一品」「おすすめパッケージ」を発信！

災害発生直後は公的支援がすぐに届かない可能性がある上、物流の混乱により店頭での物資の購入も困難であることから、各家庭で食料などを備蓄しておくことが大切です。

しかしながら、実際には家庭備蓄は進んでおらず、どのようなものを家庭に備蓄しておいたら良いかの理解も進んでいないのが現実です。

そこで、普段使っているものをちょっと多めに買って置き、使ったら買い足すローリングストックによる家庭備蓄を普及させるために、みなさんからローリングストックに関する「おすすめの一品」もしくは「おすすめのパッケージ（1食や1日分などの組み合わせ）」をSNSで発信いただくことで、ローリングストックによる家庭備蓄の普及を図ります！



Facebook



X (Twitter)



Instagram

写真とおすすめの原因を
Facebook、X (旧Twitter)
Instagramに、
#ローリングストック新潟
をつけて投稿！

あなたのローリングストックの「おすすめの一品」もしくは「おすすめのパッケージ（1食や1日分などの組み合わせ）」の写真に説明をつけてSNSに**#ローリングストック新潟**をつけて投稿してください！

期間	全体	2023.10.13 (金) ~ 2024. 3.31 (日)
	第1弾	2023.10.13 (金) ~ 10.29 (日)
	第2弾	2024. 3. 1 (金) ~ 3.17 (日)

【問合せ・連絡先】

(公社) 中越防災安全推進機構 河内

TEL 0258-39-5525

E-mail t-kawauchi@cosss.jp



中越
Niigata Prefecture
Chuetsu Earthquake
大震災 20TH

いざと言う時に備えて ローリングストックで家庭備蓄を！



普段より多く
買い置き



賞味期限の古いもの
から消費する



ポイント！
常に備蓄があること

メリット

- 食べなれたもの、使いなれたものを備蓄できる
- 賞味期限切れを防げる
- 経済的な負担が少ない



なくなる前に買い足し



災害時や感染症に罹った時など「いざ」と言う時にも、家庭に日常生活に必要な食品や日用品が十分にあれば、慌てる心配がありません。

普段使っている食品や日用品を少し多めに家庭に買い置きしておき、使った分だけ補充するローリングストックで家庭の備蓄（最低3日分、できれば一週間分）をしておきましょう！



新潟県

にいがた防災ステーション
NIGATA BOSAI STATION

日常生活で使用し、災害時にも使用できるものを、「ローリングストック」することで家庭備蓄の充実を！

日常生活で使っている食料品や日用品などを、ちょっと多めに「ローリングストック」しておくだけで災害時の生活が可能になります。

家庭備蓄の例（1週間分 / 大人2人の場合）

家庭の備蓄をチェック！

必需品		・水 2L×24 本	※1人1日およそ 3L (飲料水+調理用水)
		・カセットコンロ ×1 台	
		・カセットボンベ ×12 本	※1人1週間およそ 6本
主食		・米 2kg×2 袋	※1袋消費したら1袋買い足す (1人1食 75g程度)
		・乾麺	※そうめん 2袋 (300g/袋) パスタ 2袋 (600g/袋)
		・カップ麺類 ×6 食	
		・パックご飯 ×6 個	
主菜 たんぱく質		・レトルト食品 ×18 食	※牛丼の素、カレーなど
		・パスタソース ×6 食	
		・缶詰(肉・魚)×18 缶	
副菜 その他		・日持ちする野菜類	
		・梅干し、のり、乾燥わかめなど	
		・野菜ジュース・果汁ジュースなど	
		・調味料	
		・即席スープ	
		・お菓子	
日用品		・トイレトペーパー・ティッシュ・除菌グッズ・歯ブラシなどの洗面道具・ビニール袋 ・ラップ類、アルミホイル・乾電池・チャッカマン・軍手・乳児の日用品 →普段の生活に必要なものはお家の備蓄をチェック	

監修 / 新潟大学大学院 客員教授 博士(歯学) 別府 茂 ・ 公益社団法人 中越防災安全推進機構

家庭備蓄を行う上でのポイント

1. 災害時にも食べられる食品をバランスよく

災害時には栄養が偏りがちです。健康維持のためにも栄養バランスなどを考えて主食や主菜・副菜などをバランスよくストックしておきましょう。

2. 食事に配慮が必要な人のための備えも忘れずに

乳幼児や高齢者、食物アレルギーの方など食事に配慮が必要な方の食事は災害時には特に入手しにくくなります。できれば2週間分の備えがあると安心です。

3. ライフラインが止まっても暮らせるように

ライフラインが止まっても、カセットコンロがあれば煮炊きができます。簡易トイレの準備があれば水が止まっても用が足せます。電気・ガス・水道が止まっても暮らせるような準備をしておきましょう。

在宅避難か避難所に避難するかなど、避難先が異なると必要となる備えも変わります。避難先での生活をできるだけイメージして必要となる備蓄品の内容を考えることが大切です。

作成；(公社)中越防災安全推進機構

みんなの レスキュー デイズ

防災 エクスプレ

ワクワク!
たのしい!

2023. 入場無料

11.11 SAT

10:00-16:00

11.12 SUN

IN 東山

長岡市営スキー場 & 東山ファミリーランド

※荒天により中止の場合あり



レスキュー
デイズ



特別見学ツアー!

本物の車で大きな交通事故現場を再現し、車両救助を学ぶ訓練イベント!

【対象】小学生以上の親子向け

【受付】当日先着順 【定員】各回10組

【開始時間】①10:20~10:50 ②11:50~12:20

③14:00~14:30 ④15:30~16:00

めざせ! 防災レスキューマスター!

地震から自分や家族の身を守り抜き、防災レスキューマスターを目指そう!

参加者にはフード玉手箱に入ったホカホカおやつをプレゼント!!

MISSION

遠くの
親戚に
身の安全を
伝えよう!!

MISSION

車に
閉じ込めら
れた家族を
救い出せ!!

MISSION

足を
痛めた家族を
避難
させよう!!

MISSION

おぼれて
いる人を
救出しよう!!

MISSION

車中
避難を体験
しよう!!

MISSION

鍵の暗証
番号を調べて
家に入ろう!!

MISSION

家の
電気を回復
させよう!!



『中越地震 20 年：新潟から全国へ、そして世界へ』

計画案 令和 5.10.23

開催趣旨

地震災害、気候変動に伴う水害、雪害などが頻発する中、被災地の避難者及び救助者等の食の状況を改善することで復興に向けた動きを加速する必要がある。中越地震を一つの契機に、新潟地域では災害時の食に関する研究開発、対策等が産学官連携のもと大きく発展し、それは全国へと波及してきた。中越地震から 20 年間の成果と対策をまとめ、残された課題を明確にするとともに、世界の災害での食の備えの進展を図る。

■日時 令和 6 年 8 月 24 日（土） 12:00 開場 13:00～17:00
（決定） 8 月 25 日（日） 9:30～16:00

■定員 200 名（予定）

■主催* 一般社団法人 日本災害食学会（東京都港区）

■会場 新潟日報メディアシップ（新潟市中央区）

■参加費 日本災害食学会員 2,000 円、一般 3,000 円（予定）
オンライン視聴参加は日本災害食学会員無料、一般 1,000 円
公開市民講座 無料

プログラム（予定）

第 1 日（午後）
口頭発表 I
ポスターセッション
口頭発表 II
交流会

第 2 日 市民公開講座
基調講演
シンポジウム
（午前・午後）

- ・災害食 地域リーダー養成
- ・避難所の要配慮者の食を考える
- ・ローリングストックキャンペーン
- ・災害食 ISO 関連（国際展開）

昼：ランチョンセミナー

総会・表彰

日本災害食の事例展示（試食を同時開催）



News Release

東京臨海広域防災公園 管理センター

主催：国営・都立 東京臨海広域防災公園・そなエリア東京
『そなエリア東京 10月イベント情報』のご案内

地震発生から、来年で20年 新潟県中越大震災パネル展 2023年10月31日(火)まで開催！

東京都江東区にある国営・都立東京臨海広域防災公園(運営管理:西武造園株式会社)では、2023年10月31日(火)まで、「新潟県中越大震災パネル展」を開催いたします。本パネル展では、その激しい揺れがもたらした影響、被災地の被害、そして避難や地域の復興を通して、地震の恐ろしさと同時に、人々の絆や復興への力強い決意を伝えます。

東京都江東区有明にある国営公園・都立公園が一体となった防災公園「国営・都立東京臨海広域防災公園」は、無料で防災体験学習ができる施設「そなエリア東京」があり、身の回りの防災について考える機会にぴったりの公園です。

今回は、防災体験学習施設「そなエリア東京」で、中越メモリアル回廊・公益社団法人中越防災安全推進機構の協力のもと、「新潟県中越大震災パネル展」を開催いたします。写真や資料を通じて、実際の被害状況やその後の復興努力を感じることができます。また、防災の大切さや備えの方法についても学ぶことができます。

2004年に発生した新潟県中越大震災から、今年で19年を、来年は20年を迎えます。この地震被害は、2004年10月23日土曜日17時56分に発生した大災害の一つです。過去の地震被害を知ることで、今後の備えや支援の大切さを再認識していただくきっかけとして、この展示をご活用いただきたく思います。新潟県中越大震災の教訓を未来へとつなげ、より安全な社会を築いていくための一歩として、本イベントを開催します。

●イベント開催概要

【開催期間】2023年10月7日(土)～10月31日(火)

※休館日を除く

【開催時間】9:30～17:00

【開催場所】そなエリア東京館内

【参加費】無料

【主催】国営・都立東京臨海広域防災公園

【協力】中越メモリアル回廊・公益社団法人中越防災安全推進機構
一般社団法人防災教育普及協会

【国営・都立東京臨海広域防災公園概要】

東京臨海広域防災公園は、首都直下地震等の大規模な災害発生時に、現地における被災情報のとりまとめや災害応急対策の調整を行う「緊急災害現地対策本部」等が置かれる首都圏広域防災のヘッドクォーター及び広域支援部隊等のベースキャンプ、災害医療の支援基地として、東扇島地区(川崎市)の物流コントロールセンターと一体的に機能する防災拠点施設です。

公園内には無料の防災体験学習施設「そなエリア東京」があり、地震発生後72時間の生存力をつける体験学習『東京直下72h TOUR』など、防災について学べるようになっています。



<本件に関するお問合せ先>

東京臨海広域防災公園 管理センター 石川、澤 〒135-0063 東京都江東区有明3-8-35

TEL:03-3529-2180 FAX:03-3529-2188 MAIL: info-bousai@seibu-la.co.jp URL: <https://www.tokyorinkai-koen.jp/>

中越地震を今体験してみよう！ 電気の無い生活体験で磨く災害対応力



中越地震20年に向けたブラックアウト大作戦！

中越地震19年目の
ブラックアウトトライアル

中越地震20年目の実施に向けた
企画・体制構築

中越地震20年
ブラックアウト体験・アンケート

震災ブラックアウト
への備えの展開



ブラックアウト実施要領

やっていただきたいこと

- ① 下記QRコードからエントリーする
- ② 10月23日（月）17:56（できるだけ）にブレーカーを落とす
- ③ 18:56（一時間後）にブレーカーを復帰させる
- ④ 停電（ブラックアウト）時間内に食事をする
- ⑤ ブラックアウト時間内に写真を一枚撮る
- ⑥ 体験後にアンケートに回答する

やってはいけないこと

- A) ブラックアウト中に代替電源（バッテリー、発電機、EVなど）を使用すること
- B) 外出すること
- C) 携帯、ネットを使用すること



<https://nagaokaut.jimdosite.com>



*ブラックアウト前に準備をする、誰かと一緒に過ごすのはOKです

問い合わせ先
長岡技術科学大学
地域防災実践研究センター
防災・減災サテライトオフィス
tel: 0258-86-6550（代）

テーマ災害年順一覧 年代順に並べた特定災害と、その災害に関連するミュージアムを整理しています。

No.	災害年・名称	関連の災害伝承ミュージアム
40	1783 (天明3年) 8.5 浅間山噴火	嬬恋郷土資料館
58	1854 (安政元年) 12.24 安政南海地震・津波	稲むらの火の館
30	1888 磐梯山噴火	磐梯山噴火記念館
50	1891.10.28 濃尾地震	根尾谷地震断層観察館
63	1914.1.12 桜島大正噴火	桜島ビジターセンター
41	1923.9.1 関東大震災	東京都復興記念館
53	1934.9.21 室戸台風	津波・高潮ステーション
51	1959.9.1 伊勢湾台風	名古屋市港防災センター
1	1977.8.7 有珠山噴火、2000.3.31 有珠山噴火	洞爺湖ビジターセンター・火山科学館
61	1991 (平成3年) 6.3 雲仙岳噴火災害	雲仙岳災害記念館
2	1993 (平成5年) 北海道南西沖地震	奥尻島津波館
54	1995 (平成7年) 1.17 阪神・淡路大震災	仁川百合野地区地すべり資料館、阪神・淡路大震災記念館未来センター、ふたば学舎、北淡震災記念公園
43	2004 (平成16年) 10.23 新潟県中越地震	長岡震災アーカイブセンターきおくみらい、やまこし復興交流館おらたる、おぢや震災ミュージアムそなえ館、川口きずな館
52	2004 (平成16年) 台風23号水害	福知山市治水記念館
47	2007.7.16 平成19年新潟県中越沖地震	中越沖地震メモリアルまちから
	2011.3.11 東日本大震災	no.3~29、31~39の各施設 (記載省略)
49	2014.9.27 御嶽山噴火災害	御嶽山ビジターセンター
59	2014.8.20 豪雨	広島市豪雨災害伝承館
62	2016 熊本地震	熊本地震震災ミュージアム KIOKU
48	2016.12.22 糸魚川市駅北大火	駅北広場キターレ
60	2017.7月九州北部豪雨災害	東峰村災害伝承館
42	今後発生が予測される首都直下地震	東京臨海広域防災公園そなエリア東京

「日本災害伝承ミュージアム・ネットワーク」について

全国に所在する災害伝承施設は、その地域ごとに経験した災害こそ異なりますが、経験に学び、これからの備え・防災・減災に活かすことの大切さを伝えるといったミッションを必ず持っていることでしょう。この点においてそれぞれの施設は目指すところを共有し共働体・パートナーとなりうることが考えられます。私たちはミュージアムがネットワークし、自由な意見を交わし、交流し、やがて必要に応じて互いに協力し合えるような場の形成を目指して活動を始めています。

手始めに、全国のどこにどんな災害伝承ミュージアムがあるのかを、一人でも多くの方に知っていただき、足を伸ばしていただくことを願い、周知の活動を始めました。またこの場に関連の各施設の方々にもご参画いただき、声を交換しながら、この場を有意義に活用いただける場となることを目指していきます。

災害の伝承と、その発信の拠点となるミュージアム活動にご関心のある方は、施設のスタッフ、施設の運用に関わる団体の方、そして施設の見学者・利用者の立場を超えて、ぜひこのムーブメントにご参加ください。

全国のミュージアムを核に、みなさんで繋がって、私たちの明日・未来を、より素敵なものにしていきましょう。

現在の賛同・呼び掛け人 (災害伝承ミュージアムとしての参画) :

- ・東京臨海広域防災公園 そなエリア東京
- ・名古屋市港防災センター
- ・阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター

あなたもSD応援隊になろう！
応援隊メンバー証明
デジタルピースを
こちらからゲット！

災害伝承ミュージアム応援隊 (ミュージアムの活用者として当取り組みの活性化に貢献する団体・個人) :

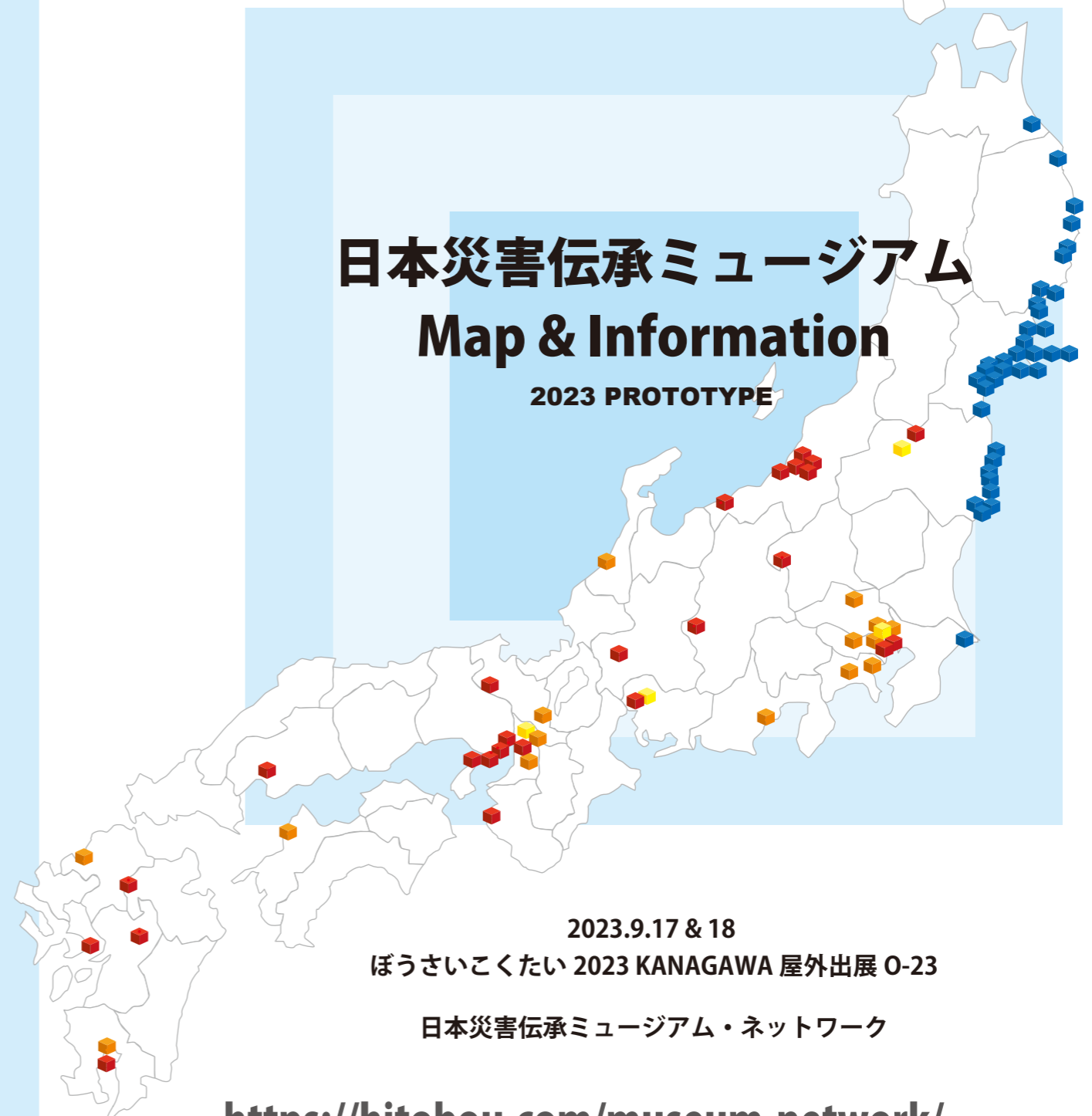
- ・一般社団法人 防災教育普及協会
- ・防災音楽ユニット Bloom Works

QR

日本災害伝承ミュージアム・ネットワーク (仮) 事務局

兵庫県の災害伝承ミュージアム「人と防災未来センター」が自主的に担っています。
賛同・呼び掛け人 及び、応援隊を募りつつ、活動を進めていきます。

Japan Disaster Heritage Museum MAP 2023



<https://hitobou.com/museum-network/>

本紙に掲載の情報を、ウェブのマップ上に取りまとめ、各施設の公式サイトにもリンクしています。具体的なロケーションや施設情報を調べる際にぜひご活用ください。サイトでは今後も関連情報を更新・公開していきます。



Japan Disaster Heritage Museum MAP 2023

日本災害伝承ミュージアム マップ

現在、日本には、特定の自然災害被害の経験に基づき、記録・伝承する展示施設が約 60 件ほどあります。これらの所在地を地図上に示しました。各地に訪問する機会には、ぜひこれらの施設にも足を伸ばし、災害からの教訓や、減災の具体策等について、学びを深めていただければ幸いです。

掲載情報は、2023 年 9 月時点のものですが、全ての施設を網羅できていない可能性があります。掲載のない施設について情報をお持ちの方は、ぜひ事務局までお知らせください。

特定の自然災害の伝承施設 (東日本大震災を除く)

- 1 洞爺湖ビジターセンター・火山科学館
- 2 奥尻島津波館
- 30 磐梯山噴火記念館
- 40 嬬恋郷土資料館
- 41 東京都復興記念館
- 42 東京臨海広域防災公園そなエリア東京
- 43 長岡震災アーカイブセンターきおくみらい
- 44 やまこし復興交流館 おらたる
- 45 おちや震災ミュージアムそなえ館
- 46 川口きずな館
- 47 中越沖地震メモリアルまちから
- 48 駅北広場 キターレ
- 49 御嶽山ビジターセンター
- 50 根尾谷地震断層観察館

2011.3.11 東日本大震災の伝承施設

- 岩手県
 - 3 八戸市みなと体験学習館
 - 4 久慈地下水族科学館もぐらんぴあ
 - 5 震災遺構たろう観光ホテル
 - 6 宮古市市民交流センター
 - 7 おしゃっち 大槌町文化交流センター
 - 8 いのちをつなぐ未来館
 - 9 大船渡市立博物館
 - 10 東日本大震災津波伝承館(いわてTSUNAMIメモリアル)
- 宮城県
 - 11 リアス・アーク美術館
 - 12 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
 - 13 高野会館
 - 14 南三陸 3.11 メモリアル
 - 15 石巻市震災遺構 大川小学校
 - 16 石巻ニューゼ
 - 17 石巻市震災遺構 門脇小学校
 - 18 MEET 門脇
 - 19 みやぎ東日本大震災津波伝承館
 - 20 KIBOTCHA (キボッチャ)
 - 21 みやぎ生協 東日本大震災学習・資料室
 - 22 NHK 仙台拠点放送局
 - 23 3 がつ 1 にちをわすれないためにセンター
 - 24 せんだい 3.11 メモリアル交流館
 - 25 震災遺構仙台市立荒浜小学校
 - 26 名取市震災復興伝承館
 - 27 津波復興祈念資料館 関上の記憶
 - 28 岩沼市千年希望の丘交流センター
 - 29 山元町震災遺構 中浜小学校
- 福島県
 - 31 震災遺構 浪江町立請戸小学校
 - 32 東日本大震災・原子力災害伝承館
 - 33 とみおかアーカイブ・ミュージアム
 - 34 みんなの交流館 ならは CANvas
 - 35 いわき市地域防災交流センター久之浜・大久ふれあい館
 - 36 原子力災害考証館 Furusato
 - 37 いわき震災伝承みらい館
 - 38 ライブいわきミュージアむ

- 1923.9.1 関東大震災
 - 51 名古屋市港防災センター
 - 52 福知山市治水記念館
 - 53 津波・高潮ステーション
- 1995.1.17 阪神・淡路大震災
 - 54 仁川百合野地区地すべり資料館
 - 55 阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター
 - 56 ふたば学舎
 - 57 北淡震災記念公園
- 2004.10.23 新潟県中越地震
 - 58 稲むらの火の館
 - 59 広島市豪雨災害伝承館
- 60 東峰村災害伝承館
 - 61 雲仙岳災害記念館
 - 62 熊本地震震災ミュージアム KIOKU
 - 63 桜島ビジターセンター

消防組織による展示や体験が充実した大型防災センター

- F1 埼玉県防災学習センター “そなえ”
- F2 消防博物館 東京消防庁 消防防災資料センター
- F3 東京消防庁 池袋防災館
- F4 東京消防庁 立川防災館
- F5 東京消防庁 本所防災館
- F6 神奈川県総合防災センター
- F7 横浜市民防災センター
- F8 静岡県地震防災センター
- F9 能美市防災センター
- F10 京都市市民防災センター
- F11 大阪市立阿倍野防災センター
- F12 堺市総合防災センター
- F13 松山市防災センター
- F14 福岡市民防災センター
- F15 鹿児島県防災研修センター

その他、関連の施設

- S1 福島県立博物館
- S2 国立科学博物館 (2023 年特別掲載)
- S3 名古屋大学 減災館 (減災連携研究センター)
- S4 京都大学 阿武山観測所 (阿武山地震・防災サイエンスミュージアム)
- 震災伝承に注力する総合博物館
- 関東大震災 100 年を契機とする企画展の開催
- 地震学系施設



中越地震から20年を振り返る

～震災を経験した中山間地域のこれからを考える～

2004年に発生した中越地震から来年で20年を迎えます。節目の年を迎えるにあたり、中越大震災に関係する様々な機関が震災を振り返る「新潟県中越大震災20年プロジェクト」を始動しました。

「地域の明日を考える講演会」では、このプロジェクトの一環として室崎益輝氏を迎え、国土の7割を占める中山間地域で発生した中越地震の20年を振り返るとともに、全国の被災地における復興の様子や災害伝承の取り組みなどをご紹介します。



室崎 益輝(むろさき よしてる) 氏

神戸大学名誉教授、兵庫県県立大学名誉教授

【略歴】

1944年兵庫県生まれ。京都大学建築学科卒業。工学博士。神戸大学都市安全研究センター教授、関西学院大学災害復興制度研究所長、兵庫県立大学減災復興政策研究科長などを経て現職。地区防災計画学会会長、ひょうごボランティアプラザ所長、海外災害援助市民センター代表などを歴任。専門は、建築防火、都市防災、減災復興。現場主義と総合主義の目線で災害に向き合うことをモットーにしている。

■日時 令和5年11月30日(木) 14:00～15:30
(13:30受付開始)

■会場 アートホテル新潟駅前 4F「越後(西)」
(新潟市中央区笹口1-1)

■募集 100名(先着) 令和5年11月17日(金)締切り
※定員に達し次第募集を締め切らせていただきます。

聴講をご希望の方は、裏面の申込書にご記入のうえ、お申し込みください。

中越地震から20年を振り返る

～震災を経験した中山間地域のこれからを考える～

お申込み方法 ※11月17日(金)締切り

聴講をご希望の方は、必要事項を記入のうえ、メールまたは申込フォームよりお申込みください。建設系CPD教育継続プログラムの受講証明書が必要な方は記載をお願いします。

※定員に達し次第、募集を締め切らせていただきますので、お早めにご応募ください。

聴講券の発送は致しません。(締切り後のご応募の場合のみ、ご連絡差し上げます。)

連絡先	会社・団体名			
	お名前	電話番号		
参加申し込み者		お名前	フリガナ	CPD受講証明
	1			必要・不要
	2			必要・不要
	3			必要・不要
	4			必要・不要
5			必要・不要	

ご連絡いただいた個人情報は、講演会開催に必要な範囲でのみ利用させていただきます。

【お申込み・お問い合わせ】

一般社団法人北陸地域づくり協会
企画事業部 担当:須田・山崎

〒950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4

電話 ▶ 025-381-1160

メール ▶ chiiki.asu@gmail.com

申込フォーム ▶ <https://x.gd/H0qEl>



こども防災未来会議®とは？

防災・減災について学んだ子どもたちの学習成果の発表と交流から、“共によりよい未来を創造していく場”です。

子どもたちはこれまで学んできたことを伝え合い、学校を超えた対話的な活動を通じて、自己の学びを再構築していきます。

新しい知識や気づきをこれまでの学びと関連付けて、一人一人が自分に求められる役割やできることを考え、その実現に向けた誓いの言葉「私のこども防災未来宣言」を作成し、発信します。

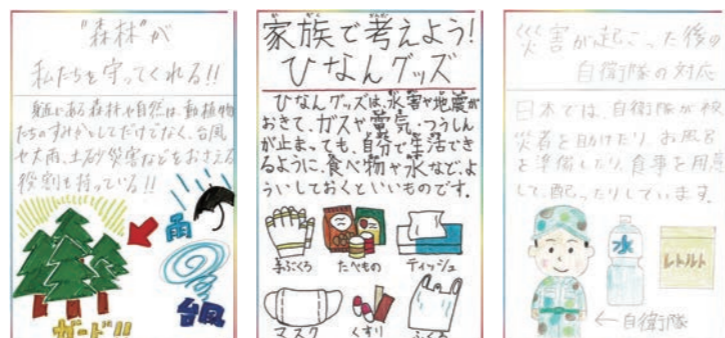
様々な自然災害を経験している新潟県民として、その教訓を語り、次世代につなぎ、よりよい未来の新潟を子どもと一緒に創っていくことを目指して開催する年に一度の防災教育のお祭りです。

学習成果の発信や学校を超えた子ども同士の交流機会として、ぜひ、ご参加ください。



こども防災未来会議®2022の様子

※詳細は、ふるさと未来創造堂のホームページか「こども防災未来会議®2022実施報告書」をご覧ください。



「Bosaiみらいトランプ」完成!



防災・減災の大切なことを伝えたい！
自分よりも年下の子どもたちが、
普段から楽しみながら防災・減災についても学べる
トランプのアイデアをみんなで考えました。
学校・学年を超えて分かりやすく伝える工夫を相談し、
考えたアイデアを発表し合いました！
みんなのアイデアから「Bosaiみらいトランプ」が完成！

【お問合せ先】

NPO 法人ふるさと未来創造堂 〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39
TEL 0258-94-6119 FAX 0258-94-4582
ホームページ <https://www.furusato-mirai.org/>

人とかわり、地域に学ぶ。
郷土愛を深め、よりよい未来を創造する。
未来を切り拓く力を育む防災教育を応援します！

ふるさと未来創造堂

～よりよい未来の新潟を子どもと一緒に創るプロジェクト～

こども 防災未来会議® 2023

総合的な学習の
時間の成果発表や
発信におススメ！

zoom YouTube

防災かべ新聞発表会・表彰式

2023年度こども防災未来宣言ディスカッション

日時：2023年12月9日（土）10：15～12：30（予定）

会場：長岡震災アーカイブセンター きおくみらい及びオンラインでのハイブリッド開催

参加費：無料

参加資格：防災かべ新聞コンクール入賞チームの希望者



「防災かべ新聞コンクール」 作品募集！

防災について学んだ成果をまとめた「防災かべ新聞」を募集します。ご応募いただいた作品は審査会を経て、県内3箇所で実施する展示会にて掲示します。

【前年度の展示会場】

- ・長岡市フェニックス大手イースト スクエア
- ・かしわざき市民活動センター まちから
- ・新潟ふるさと村 アピール館

※各募集の詳細は、「チラシ中面」をご確認ください。

「防災文化祭」も同時開催！ 新聞以外の作品も募集します！

パンフレット、防災マップ、ポスター、映像等、防災かべ新聞以外の作品も募集します。ご応募いただいた作品は、長岡震災アーカイブセンターきおくみらいにて、一定期間展示させていただきます。

エントリー締切：

2023年10月20日（金）

作品提出期限：

2023年11月1日（水）※必着

主催：(特非)ふるさと未来創造堂 協力(予定)：群馬大学大学院理工学環境創生部門広域首都圏防災研究センター、新潟日報社、(公社)中越防災安全推進機構
後援(予定)：新潟県、新潟県教育委員会、上越市、上越市教育委員会、新潟市、新潟市教育委員会、長岡市、長岡市教育委員会

防災かべ新聞コンクール 募集要項

募集内容：新潟県内の児童・生徒がグループ（班・クラス等）または個人で、防災について学ぶ過程で気づき、考えたことをまとめたものを募集します。

※学習したことを列記するだけでなく、子どもが災害や防災について学んだことで、どのようなことを感じ、何を考えたか、これからどのように生かしていくのか等がまとめられた作品を期待します。

募集対象：新潟県内の小学校中学年（3・4年生）～中学生のグループ（班・クラス等）または個人

応募部門：小学校中学年（3・4年生）の部、小学校高学年（5・6年生）の部、中学生の部の3部門

※委員会活動や縦割り班での応募も可能。（グループ所属の最上位学年の部門で審査します。）

出品規定：

・用紙は模造紙（タテ1,090ミリ×ヨコ790ミリ）、もしくはB1（タテ1,030ミリ×ヨコ728ミリ）相当の紙を使用して1枚（表のみ）にまとめてください。

・用紙は縦置き。文字の縦書き・横書きは問いません。なお、出品作品はオリジナルのものに限ります。

・筆記用具は自由。ただし、マジック・サインペン等読みやすいものを使用してください。パソコンで出力したものも可。

・作品内には学校名、およびグループ名（班・クラス等）または個人名を記載してください。

同一グループまたは個人による複数応募は不可とします。

・写真、装飾物等の作品への貼付も可。その際は作品から剥がれないように十分留意してください。

なお、用紙外にはみ出さないようにお願いします。規定外の作品は選考の対象外となります。

・展示で作品を傷めないように、裏面の4辺には、養生テープまたはガムテープを貼るなどしてご提出ください。

応募方法：作品の提出を予定する学校または団体は、受付用のエントリー用紙（※）を記入し、受付期間内にメールまたはFAXにてお申込み下さい。

○ 受付期間 **2023年9月1日（金）～10月20日（金）**

作品出品：作品に出品票（※）を貼り付け、提出期限までに当法人宛てに宅急便等で発送していただくか、直接ご持参ください。

発送費用は学校または団体負担となります。ご持参いただく場合には、事前に日時等をご連絡ください。

返送費用は主催者負担です。作品は県内3箇所程度での展示会終了後（3月中旬頃を予定）に返却します。

○ 提出期限 **2023年11月1日（水）必着**

※エントリー用紙及び出品票は、公式サイト「ふるさと未来創造堂」<https://www.furusato-mirai.org/>からダウンロードしてください。

防災文化祭 募集要項

募集内容：新潟県内の児童・生徒がグループ（班・クラス等）または個人で、防災について学び、作成したものを募集します。

※審査の対象にはなりません。予めご了承ください。

募集対象：新潟県内の小学校中学年（3・4年生）～中学生のグループ（班・クラス等）または個人

出品規定：特に定めはありませんが、展示スペースに対応した数量・大きさのものとさせていただきます。エントリー時に、必ず出品する成果品の写真と大きさ・点数をご連絡ください。お電話にて、展示の可否をご連絡させていただきます。

応募方法：防災かべ新聞と同様です。

○ 受付期間 **2023年9月1日（金）～10月20日（金）**

作品出品：防災かべ新聞と同様です。 ※展示会場は長岡震災アーカイブセンターきおくみらいのみとなります。

○ 提出期限 **2023年11月1日（水）必着**

<お申込み・作品提出・お問合せ>

NPO法人ふるさと未来創造堂 〒940-0034 新潟県長岡市福住3-4-39 TEL：0258-94-6119 FAX：0258-94-4582

ホームページ：<https://www.furusato-mirai.org/> メール：info@furusato-mirai.com

2022年度防災かべ新聞コンクール 作品紹介

応募作品数 全88点

部門別グランプリ・準グランプリ作品計4点



グランプリ 見附市立葛巻小学校 1組E
作品名：スマイル防災新聞



グランプリ 長岡市立栖吉中学校 3班
作品名：栖吉備え新聞



準グランプリ
左 見附市立葛巻小学校 1組E
作品名：スマイル防災新聞
右 新潟市立鳥屋野中学校 3組6班
作品名：防災マップ新聞 in 2022

※その他の作品や、こども防災未来会議®の詳細は、

～よりよい未来の新潟を子どもと一緒に創るプロジェクト～こども防災未来会議®2022 実施報告書をご覧ください。

エコノミークラス症候群予防・検診支援会

震災・災害シンポジウム

Earthquake and Disaster Symposium

会長あいさつ

プログラム

参加登録

参加者へのご案内

出展企業

震災・災害シンポジウム2023

第10回 新潟県中越大震災シンポジウム ～分散備蓄と職能ボランティア～

会期 2024年2月17日(土)

会場 完全web開催

主催 エコノミークラス症候群予防・検診支援会

榛沢和彦

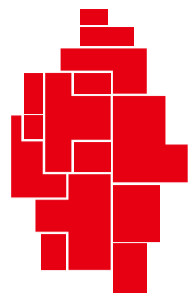
エコノミークラス症候群予防・検診支援会

新潟大学先進血管病・塞栓症治療・予防講座

〒951-8511 新潟市旭町通1番町757

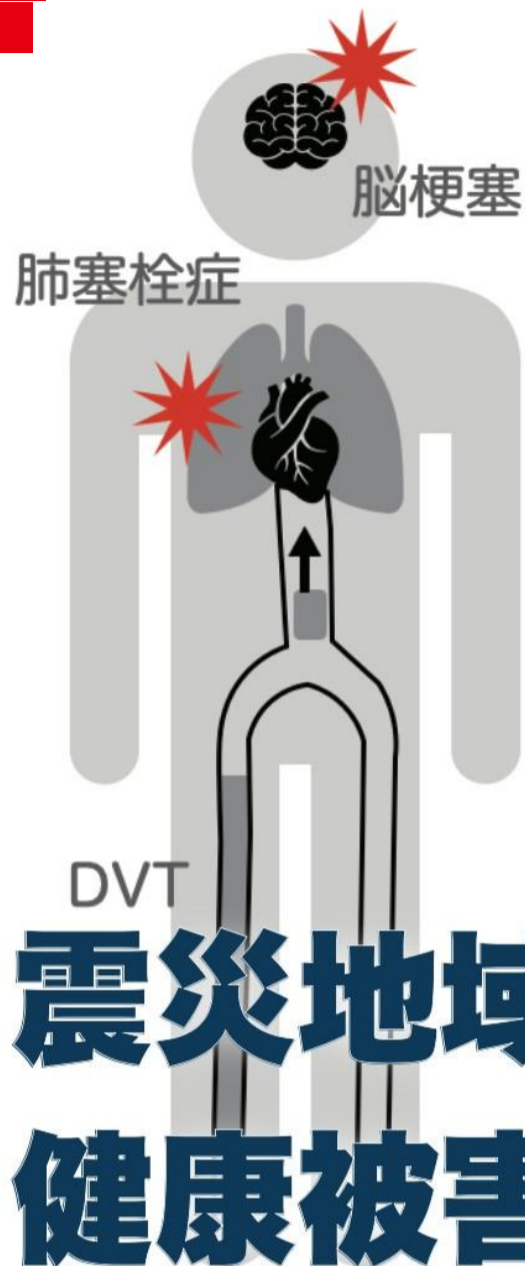
TEL&FAX : 025-368-9108

E-mail : vasc-niigata@med.niigata-u.ac.jp



中越
Niigata Prefecture
Chuetsu Earthquake
大震災 20TH

クラウドファンディング実施！



震災地域における 健康被害を予防したい！

【ご協力をお願い】

私たちは新潟県中越地震をきっかけに、避難所での健康被害、特に DVT（足の深部静脈血栓）の調査を進めてきました。DVT は長期間残留し、脳梗塞や心筋梗塞といった疾患を引き起こすリスクがあります。これまで、避難環境を改善する活動とともに、震災・災害シンポジウムを主催し、専門家間での情報交換を行ってきました。次なるステップとして、収集した避難所の写真データを AI 解析し、住民の健康にとって最適な避難所を提案したいと考えます。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

【目標金額】 100 万円

【募集期間】 2023 年
10/23(月)～12/21(木)



榛沢 和彦

エコノミークラス症候群予防・検診支援会 会長
新潟大学医歯学総合研究科特任教授

プロジェクトの詳細・ご支援はこちら

アカデミスト 被災地 健康

検索

<https://academist-cf.com/projects/314>

